

## 第2章 都市計画の概要

都市づくりの明確なビジョンなくして、今日の美しい街並みと緑豊かな「ガーデンシティ」シンガポールは存在しなかった。本章では、都市計画策定の経緯や内容について述べることにしたい。

### 第1節 都市計画の歴史

近代シンガポール建国の父といわれるスタンフォード・ラッフルズ卿が、1828年に策定した、民族別の住み分けを強制した「タウンプラン」がシンガポールにおける最初の都市計画であると言われているが、総合的な国土開発・都市整備に関する最初の計画は、1958年に英国植民地政府により策定された「マスタープラン」である。既に述べたとおり、当時のシンガポールは、第二次世界大戦の混乱により生まれた都心部の不法居住者の密集地区を改善する必要があり、また、経済の発展を図るための投資・ビジネス環境の整備が不可欠であった。

自治権獲得後の1960年にシンガポールの都市計画の基本となる計画法（Planning Act）が施行され、計画策定の担当機関として、国家開発省に計画局（1989年に都市再開発庁に合併される。）が設立された。この法律により、全ての公共、民間の開発行為は計画により明確に調整・統合されることになった。また、既に策定されていたマスタープランはこの法律体系に組み込まれることとされた。

政府は、都市部の再開発により早急な近代的市街地環境を実現すべく、都市中心部にできていたスラム街を除去し、大規模な開発が可能な土地の確保に着手していった。

### 第2節 コンセプトプランなどの策定

シンガポールの国土計画・都市づくりの骨格は、コンセプトプランの中に明確に示されている。コンセプトプランは、現在都市再開発庁が中心となり、長期的視野に立ち、関係機関との連携を図りながら作成している。その遂行においても、経済成長が概ね順調であったことや、第1章第3節の「土地制度」で述べたとおり、国土の約9割が国有地であり、土地収用においても政府が強権を発することができることなどから、具体的計画が「絵に描いた餅」で終わることはほとんどない。

#### 1 コンセプトプラン（1971年）

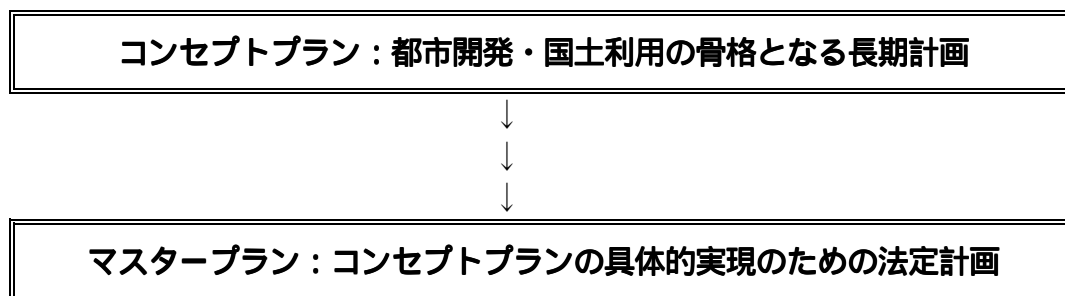
独立後のシンガポールの成長に伴い、新たに長期的な計画の策定が必要となり、1967年から国連の援助を受けた長期的土地利用計画策定に関する4年計画のプロジェクトが開始された。そして、この計画に交通計画を付加して、1971年に最初の「コンセプトプラン」が完成した。

コンセプトプランは、概略的な計画図などで都市全体に関する土地利用やその他の長期的政策などを示している。同プランは、マスタープラン（後述）の上位計画としてシンガポール全体の概念計画として位置付けられるが、法的拘束力はない。コンセプトプ

ランの具体的実現のために、法定計画であるマスタープランが随時決定・改訂されるという関係にある。

マスタープランは国土整備の詳細計画という性格を持ち、計画法の規定により5年ごとに改訂され、ニュータウン開発や埋立といった新規開発と再開発事業が一体的に計画されている。

現在のシンガポールの国土計画・都市づくりの骨格は、この1971年のコンセプトプランに定められたものである。同プランには、都心部の集積機能の強化、島内全域へ就業地域の分散、ジュロン地区及びセンバワン地区への重工業の集中、ニュータウンへの軽工業の立地、高速道路網及び MRT（都市部は地下鉄、郊外は高架鉄道）の拡張、チャンギ空港の建設などが含まれており、これに従い実際の諸施設の整備が行われてきた。



## 2 改訂コンセプトプラン（1991年）

### （1）概要

1971年にコンセプトプランが策定されてから、20年振りの1991年に「改訂コンセプトプラン」が発表された。その目的は、21世紀に向けて、より質の高い住宅、より多くのレジャー活動、より魅力的な都市・住宅環境、より質の高い生活の実現などとされている。また、より多くの人口を抱えても、よりよいライフスタイルを備えた、美しく、個性的で、優雅な国に成熟できることを想定している。

その一方で、「経済成長なくしては他の目指す成長は実現しない」という政府の方針は崩しておらず、シンガポールを主要なビジネスセンターとして維持する施策も盛り込まれている。

同プランでは、2000年、2010年、そして人口が400万人（外国人労働者を含まない。）に達した年をX年とし、計画を3段階に分け、人口の増加や国民の要望などに対して柔軟に対応することとし、開発計画は状況の変化に弾力的に適応するものになっている。

#### <主な提案内容>

中層・低層住宅の比率を増加させ住宅の多様性を高める、住宅床面積を広くさせる、公共住宅を増加させるなどにより、より良好な居住を提供する。

より多くの海岸、リゾート、マリーナなどを設け、離島でのレジャーを充実させることなどにより、シンガポールをレジャー・アイランドとする。

シンガポールを5つの地域に分割し、現在の都心部のほかに、4つの80万人規模の地域センターを開発して地域の生活を活性化させ、中心地域の過度の混雑・開発を防ぐ。

マリーナ・ベイ周辺を世界クラスの業務中心地として開発し、世界クラスの文化施設の建設などを行い、新たな都心を開発する。

高速道路や MRT を拡大させ、総合的な交通システムを構築する。



2002年10月、マリーナ地区に完成した総合芸術施設「エスプラネード」

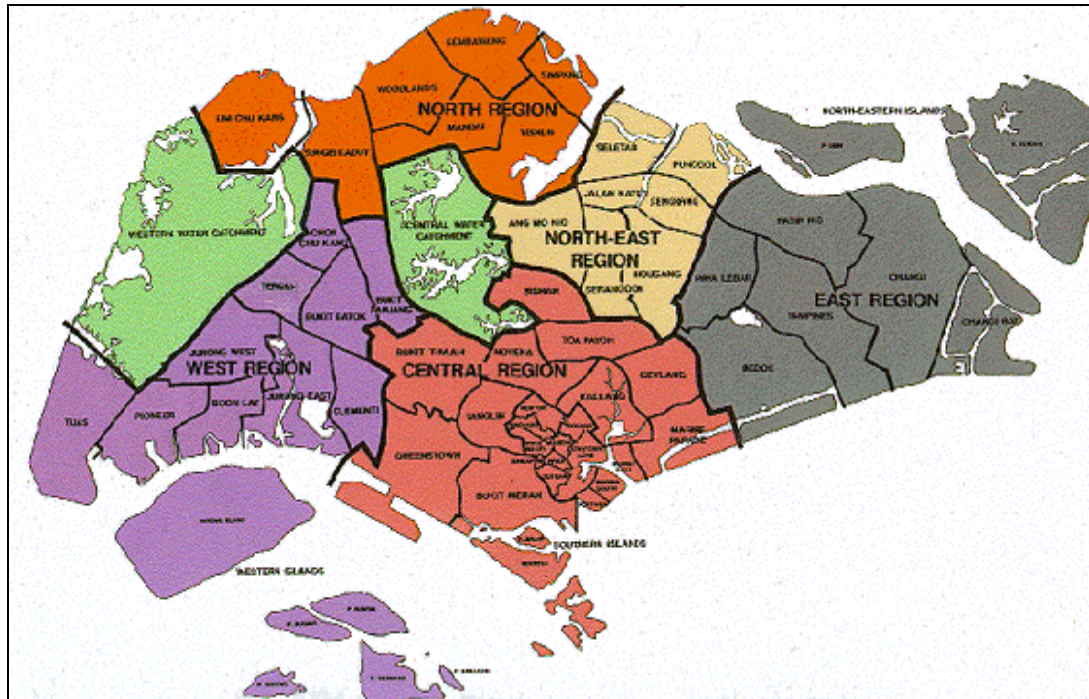
## (2) 開発ガイドプラン (DGP ; Development Guide Plan)

1991年のコンセプトプランの改訂を受けて、全国を55地区に区分し、各地区の実情に合わせた計画作成を行ったものが「開発ガイドプラン」である。同プランは、地域の視点から住宅需要、コミュニティ、産業、交通、レクリエーション設備などに焦点を当てている。

1993年に各開発ガイドプランが完成し、これらを統合した上で法定のマスタープランとした。全部で55の開発ガイドプランが、コンセプトプランの具体的内容を示

していることになる(現在は主に1998年策定の開発ガイドプランを基に計画が遂行されている。プランの一例としてシンガポール川周辺の開発を取り上げているので巻末の参考資料2(47~49P)を参照されたい。)

なお、開発ガイドプラン作成の過程では、プラン案に対する意見を住民から求め、民間の専門家との会合を行うなど、関係者の意見を反映させるように努めている。



全国を55地区に区分し、「開発ガイドプラン」を作成している。

(出所：都市再開発庁 Web Site)

### 3 コンセプトプラン 2001

コンセプトプランは、世界のトレンドの変化や国土利用のニーズに対応できるように10年ごとに見直しを行うこととなった。21世紀の世界クラスの繁栄した都市を目指して、2001年7月に「コンセプトプラン 2001」が最終発表された。

なお、詳細については、次章以降で述べることにしたい。



### 第3章 コンセプトプラン 2001 の概要

21世紀の世界クラスの繁栄した都市を目指して「コンセプトプラン 2001」が作成された。住居、レクリエーション、ビジネス、社会基盤整備、地域の個性・独自性などの多方面にわたる要素にスポットを当て、計画が作成されている。また、今回は計画作成に当たり、前回までとは異なり、最終決定の前に草案を公開し、一般国民の意見・要望を広く募集する形をとった。

本章及び次章ではコンセプトプラン 2001 の概説を行い、シンガポールの将来の都市像について述べることにしたい。

#### 第1節 特徴

21世紀に向けた開発の方向性、国土の多目的使用を再検討するために、1998年から新たなコンセプトプランの作成準備に入った。その後2000年8月26日、国家開発省はコンセプトプラン 2001 の公開協議会を立ち上げ、2つの委員会が国土利用の問題について調査研究を開始した。2つの委員会は、国内の各分野から広く集められ（大学教授、利益団体、産業経営者、実業家、学者、一般人、学生）、国土利用の主要問題について研究・議論を行った。主要問題とは、主に次の2つである。

狭い国土にあって、住宅、公園、工場などをいかに配置するか

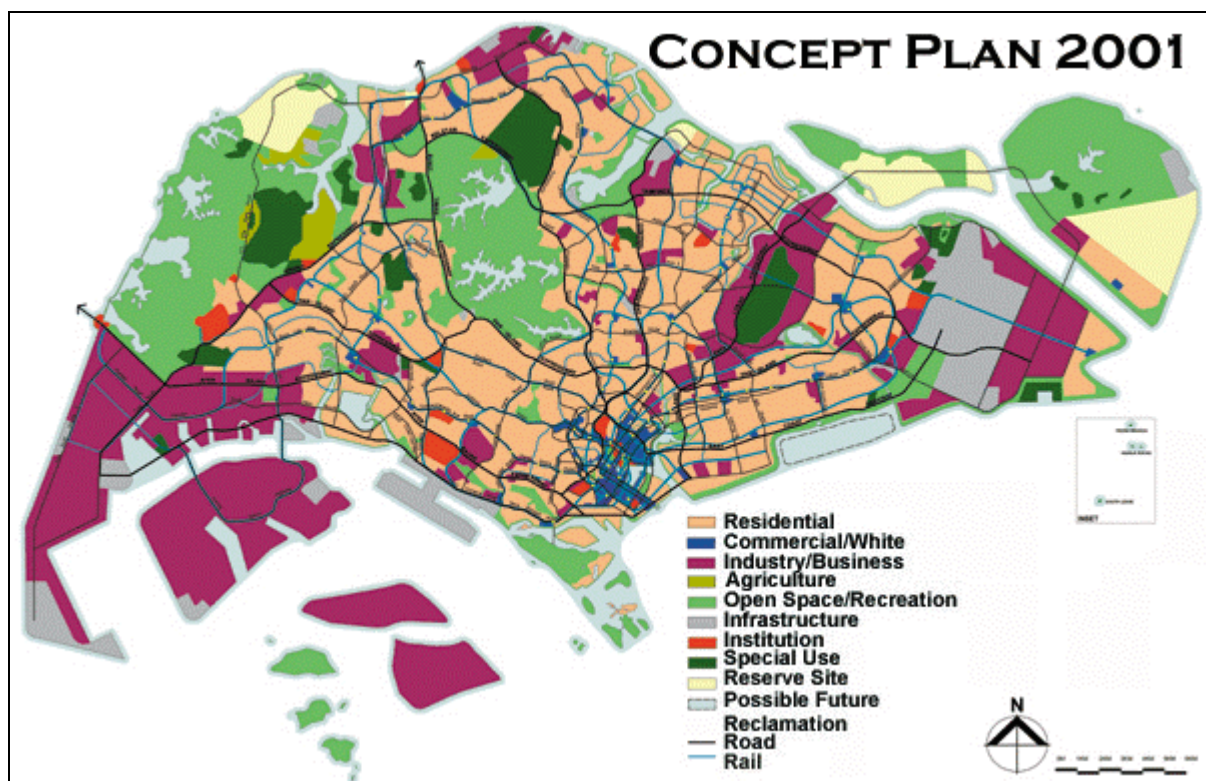
国土の徹底的な有効利用を背景に、シンガポールの個性をいかにして維持するか

委員会のメンバーは、問題をよりよく検討するために頻繁に現場に出かけ、一般の人々からも意見を求め、結果的に委員会の提案の約3分の2がコンセプトプラン 2001 に取り入れられた。最終提案の前に、委員会のメンバーは一般参加の公開討論会も開催した。コンセプトプラン 2001 の草案は、2001年4月28日に公開され、一般からの意見・反響を得るために約2週間の期間を設け、公開討論会やパネル展示が都市再開発庁内のセンターで行われた（約2,200人が展示会場を訪れた。）。また、都市再開発庁は一般からの意見・要望を集めるために、インターネットを介し調査様式（巻末の「参考資料3」（50～53P）参照）を用いた（約300件の回答あり。）。こうして、広範囲にわたる協議の後、2001年7月にプランが最終発表された。

これまでのコンセプトプランと異なり、国民の視点と彼らがどのように生活し、働き、余暇を過ごしたいのか、彼らの将来のニーズや抱負は何なのかにより重点を置いている。



コンセプトプラン 2001 の草案発表とパネル展示の様子  
 ( 出所：都市再開発庁 Web Site )



目的別地区区分や交通網を示したコンセプトプラン 2001  
 ( 出所：都市再開発庁 Web Site )

## 第2節 主要提案

40年～50年後には、人口が550万人に達すると予想されているが、この人口規模に対する必要な住居、雇用、レクリエーションなどの用地は明らかに不足すると考えられる。この不足分への対策として、より高層のオフィス・ビルや住宅の建設などが考案されている。

シンガポールが目指すべき姿は、  
 繁栄した世界的業務中心地となる活力あふれる都市

国民が認識できるユニークな個性をもつ特殊性のある都市  
活力、刺激、娯楽のある楽しい都市  
である。

なお、住居、レクリエーション、ビジネス、社会基盤整備、地域の個性・独自性などを総合的に検討したコンセプトプラン 2001 の主要提案は以下の7つにまとめられており、詳細については次章で述べることにしたい。

#### 《7つの主要提案項目》

住み慣れた地域における新しい住宅 (New Homes in Familiar Places)

都市部における眺望のよい高層住宅の提供 (High-rise City Living – a room with a view)

多種多様なレクリエーションの提供 (More Choices for Recreation)

新しいビジネスゾーンの設定、高付加価値産業用地の確保 (Greater Flexibility for Business)

世界的なビジネス中心地を目指して (A Global Business Center)

交通環境の整備 (An Extensive Rail Network)

個性・独自性の重視 (Focus on Identity)